

アンケートの回答率は、無回答や四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。										
領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価・授業評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員、保は保護者、生は生徒、授は授業評価、地は地域アンケート)	アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)		
					肯定的 回答	否定的 回答				
総合				生1 佐倉高校に入学して良かったと思う。 保1 佐倉高校に入学させて良かったと思う。	93.4 96.6	6.4 3.3	学習指導、生徒指導、キャリア教育などで概ね、生徒・保護者の入学への満足度は高い。	生徒・保護者・地域の満足度が限りなく100%に近づけるよう下記の改善方策を遂行する。		
学校経営	1 新型コロナウイルスの感染状況を把握しながら必要に応じた防止対策を実施し、生徒・教職員及びその家族の健康を守りながら、日常生活へ移行する。	①教育活動の場面で基本的な感染防止対策を継続するとともに、定期的な学校安全点検・修繕を行う。	①生徒・保護者・職員による評価アンケートの肯定的意見が90%以上であること	生28 学校は、感染症に対する対策を十分にとっている。	85.1	14.8	新型コロナウイルスが5類に変更後も、換気、咳エチケットの推奨などにより、本校内での集団感染を防止することができた。学校からの要請に対し、生徒・保護者・職員が真摯に対応した結果であると分析する。施設面については経年劣化により、改善が難しい面がある。生徒への健康・安全に関する指導は、教職員間で連携し適切な指導が行われている。アンケート項目にはないが、全校体制で学校安全点検を実施し、危険箇所、破損箇所等については、速やかに改修した。	「学校における感染対策ガイドライン」に基づいて、今後も気を緩めることなく、絶対に本校から集団感染を引き起こさないという強い危機意識のもと感染症対策を維持していく。安全点検においては、引き続き年間数回の点検を実施し、破損箇所等、指摘があった箇所についてはスピード感をもって改善していけるよう心がける。校舎の老朽化により、安全面・衛生面を危惧する声が多い。できることから最善を尽くし、改善へとつなげていく。		
	保17 生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われている。			91.8	7.9					
	保21 学校は、感染症に対する対策を十分にとっている。			87.4	11.5					
	職22 学校は、感染症に対する対策を十分にとっている。			93.3	6.7					
	2 教職員間でのコミュニケーションの充実を図り、明るく楽しい職場環境づくりと働き方改革に向けた仕組作り・共通理解に取り組む。また、高い倫理観や危機管理意識を保持し不祥事・不適切指導ゼロを徹底する。	②教職員間のコミュニケーションを充実させるとともに、日常業務について危機管理の視点から自己点検をする機会を設けるとともに、不祥事防止に向けて、効果的な職員研修を実施する。	②職員による評価アンケートの結果及び研修の実施状況の精査	職9 私は、学校の教育課題について、日ごろ教職員間でよく話し合っている。	93.3	6.7	学校諸課題に対し、複数での対応、学年間・分掌間での情報共有が日常化し、連携は深まっている。また、主任・管理職への連絡・報告が徹底され、諸問題に組織で対応する風潮ができあがっている。綱紀の肅正に関しては、県内において後を絶たない教職員の不祥事を受け、不祥事根絶のための動画を視聴したり、職員研修を行ったりすることにより、襟を正す機会が増えた。何よりも職員個人が高い倫理感を持ち、危機意識を高めていることで、本校における不祥事ゼロへと繋げることができた。	様々な機会をとし、自己点検・研修を継続し、本校からは不祥事を絶対に起こさない。不祥事防止については何よりも職員個々の意識に起因するものが大きいため、引き続き自らを律し、職員間でのコミュニケーションを充実させていく。ストレスを抱える教員に対しては、互いに支援し合う体制・雰囲気づくりを推進し、組織的に業務を遂行できる職場にしていくな。		
	職14 私は、他の職員と協力して、日常的教育活動に当たっている。			96.7	3.3					
	3 全ての教職員が、それぞれの仕事に誇りと責任を持ち、学校の課題には当事者意識を持って、互いに協力・支援できる組織体制「チーム佐倉」で課題解決を目指す。	③ホームページの更新頻度を上げ、教育活動の成果を定期的に発信する。	③生徒・保護者・地域による評価アンケートの結果及びホームページの掲載内容と更新状況の確認(月5回以上の更新)	職18 ホームルーム活動を主とした学級経営の点検・改善に、学年と学校の全体で取り組んでいる。	93.3	6.7	新型コロナウイルスが5類に変更され、多くの教育活動を行うことができた。SSH事業、探究活動、生徒会行事、部活動など、本校の特色・生徒の活躍を、ホームページを通じて外部に発信する機会が増え、1月までで90回を超えた。特に、SSH事業を知らせるページの改善が行われ、更新の50%を占めている。一方で、生徒のホームページの活用は低くなっている。	ホームページを通じて外部に発信する広報活動について、教職員に過度な負担をかけることなく、持続可能な業務を遂行できるように、担当部署を中心に改善策を模索していく。生徒への情報発信は、ホームページ以外にGoogle Classroomを活用しており、その効果については十分に達成していると思われる。		
				生25 私は、学校のホームページをよく活用している。	20.2	79.6				
		④部活動の指導時間が超過勤務の多くを占める現状から、部活動ガイドラインにそった形で部活指導時間の短縮・効率化を促し、働き方の改善を図る。また、月ごとの勤務時間調査を精査し、超過勤務者に業務の手順の改善を促す。	④保護者・職員による評価アンケートの結果及び勤務時間調査による実態把握と適切な面接等の実施	④保護者・職員による評価アンケートの結果及び勤務時間調査による実態把握と適切な面接等の実施	保20 学校は、ホームページ等により情報発信を適切に行っている。	91.0	8.8	出退勤時間を現システムにより管理するようになって約3年が経過した。月ごとの平均残業時間の推移を資料として衛生委員会などでも現状を把握するとともに、改善策を探った。残業時間は部活動指導に費やす時間や授業準備のための教材研究に費やす時間と密接に関係していることがわかった。日常の業務においては、職員アンケートの24の結果が示すように、業務の平準化・分業化が進んでいると感じている職員の割合が半分以上と低く、業務の負担の偏り、人員の不足を感じている職員は多い。	引き続き、「部活動ガイドライン」に基づいた適切な部活動指導を行うとともに、顧問間で連携して業務の縮減に努める。また、各分掌・学年において主任を中心に業務の分業化を進め、周囲から積極的な支援を行える雰囲気づくりを推進する。Teamsを活用した朝の職員打合せや職員会議のペーパーレス化により、業務短縮につながったように、ICTの活用により働き方改革につながるものや、創意工夫により働き方改革につながるものは企画委員会等を通して積極的に取り入れ、改善へと繋げる。	
					地3 佐倉高校は、地域への広報活動に努力している。	88.9	11.1			
					保22 学校は、生徒の「適切な休養時間の確保」や職員の「働き方改革」を踏まえ、課外活動の時間や休日の設定を適切に行っている。	84.1	15.5			
					職19 私は、顧問どうして連絡・協力し合い、部活動指導に当たっている。	93.3	6.7			
学習指導	①分掌・学年・教科の連携を強化し、進学指導重点校・SSH指定校・英語教育拠点校として取組の質的向上を図る。	①②生徒・保護者による評価アンケートにおいて肯定的意見が80%以上であること。学びの基礎診断等による経年変化の分析。合格・進学実績、年度当初の進路希望調査の分析。	職23 学校は、「働き方改革」推進を踏まえた対応(業務の平準化・分業化等)に努めている。	45.0	55.0	進学指導重点校として授業の満足度において好結果を得ることは最優先課題の一つである。教員個人が創意と工夫により、生徒の学習意欲を喚起する魅力ある授業を展開しており、92%の生徒が授業を理解しやすいと答えるなどの好結果が得られる。進学実績については、昨年度は国公立大の現役合格者数が115名に達し、上昇傾向が続いている。さらに、難関大学への進学を希望する生徒が増えていくことも最近の傾向である。探究学習においては、先進的な取組を継続し、SSH事業を中心として主体的で協働的な学習を推し進めることができ、成果を上げることができた。探究学習部を中心にアイデアを創出し、計画的に探究学習を進めることができた。また、コロナ禍により中断していた国際交流事業については、オランダ研修、ドイツ研修、SSHシンガポール研修を実施することができた。県からのBYODの整備が加わり、Wi-Fiの整備がさらに進んだことにより、ICT機器を活用した協働学習を取り入れる教員も増えつつある。ICTの持つ利便性を生かし、個々の考えや意見の短時間での共有、学習課題の配信、授業に係る助言や指示、視覚に訴える授業、発信力の強化が効果的に行われ、生徒の学びの幅を広げている。授業についての生徒の満足度が、保護者による高評価にもつながっていると考える。	生徒が自分自身で学びを振り返るための評価の工夫を各教科・科目の特性に合わせて充実させるとともに、生徒の知的好奇心を一層喚起する質の高い授業を展開できるよう工夫する。次年度からも新しい学習評価のもと、引き続き、各教科で連携を図りながら研修を重ね、魅力ある授業づくりに取り組んでいく。また、県からBYODの整備がされたことに伴い、これまで以上にICTを活用し、生徒の学習効果に繋がる利用方法について、各教科で検討し、十分な満足度が得られるよう引き続き各教科で研鑽を深めていく。また、職員間での連携を図りながら、ICT機器の利用方法、効果的な使用方法について情報共有し、組織的に授業力向上に向けて取り組む。			
			職24 私は、「働き方」を考えて、残業時間の削減に努めている。	83.3	16.7					
			生8 私は、授業内容に興味・関心がわいている。	88.6	11.4					
			生9 私は、授業に集中し、頭脳を活発に働かせている。	90.0	10.0					
学習指導	②ICTの効果的な活用等により、生徒の知的好奇心を一層喚起するとともに、主体的・協働的に学びを深めていくことのできる授業を実践し、授業評価アンケートの実施等により満足度を検証する。	③相互の授業を観察し、研修期間を年2回以上設け、質の高い指導方法や評価方法を研究する。	生10 先生方の説明する内容は分りやすく、理解しやすい。	92.0	8.0	校内授業研修週間を年2回設け、相互参観・相互評価を行うとともに、研究授業等への積極的な参観や、英語拠点校公開授業において外部に授業を公開し協議会等で研修を深めた。ベテラン、若手の枠を超えて互いの授業から良い点を参考にし、自らの授業の改善を図った。生徒が授業について「内容・展開の仕方・教材・教え方の工夫」について概ね95.5%の生徒が満足していることから、目標は概ね達成できたものと捉えている。	引き続き、教員の校内授業研修週間を年に2回設け、年間行事予定に位置づける。アンケート結果から見てわかるように、職員の授業改善に対する意識は高いため、引き続き、研鑽を積み、生徒の満足度が100%に近づけるようにする。			
			生11 先生方は、授業内容・展開の仕方・教材・教え方を工夫している。	95.5	4.2					
			生26 先生方は、ICT機器やGoogle Classroom等を効果的に授業に活用している。	94.1	5.6					
			保6 授業をとおして、生徒の学力は着実に向上している。	88.3	10.5					
			保7 授業はよく工夫されていて、わかりやすいと思う。	86.6	11.7					
			職12 生徒の学力を着実に向上させる効果的な授業ができている。	95.0	5.0					
			職13 職員間に、互いの授業を参考にして授業を改善する雰囲気がある。	91.7	8.3					

令和5年度 千葉県立佐倉高等学校 学校目標及び自己評価

アンケートの回答率は、無回答や四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。										
領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価・授業評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員、保は保護者、生は生徒、授は授業評価、地は地域アンケート)		アンケート回答率		自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	
				肯定的 回答	否定的 回答					
生徒指導	佐倉高校生としての自覚を促し、自立した高校生の育成を目指すとともに、全ての教職員で取り組むメンタルケアを中心とした教育相談体制の充実を目指す。	①教育相談体制の一層の充実を図り、SCとの連携を図りながら、多くの職員で情報を共有するとともに、個人面談・保護者面談・いじめアンケート・スクリーニング会議等を通して、生徒の抱える問題・課題を早期に発見し、組織で対応する。	①スクリーニング会議での内容及び教育相談室・教育相談に係る保健室の利用回数等の分析、個人面談、保護者面談及び生徒の実態調査の結果	生 17	悩みなどの相談に乗ってくれる先生が多くいて安心できる。	87.5	12.5	学習や進路、家庭環境等に悩みを抱える生徒が増加傾向にある中で、学年・教育相談委員会(スクリーニング会議)で十分に情報を共有し対応した。スクールカウンセラーの配置校となって4年目となり、職員アンケート17の結果から見て取れるように、教育相談体制はより一層充実した。また、保健日誌や学校日誌を定期的にチェックし、保健室への来室頻度や欠席傾向のある生徒を把握し、改善策を探った。また、警察や児童相談所などの外部機関とも連携し、諸問題の未然防止にも役立っている。	次年度も各学年の教育相談係、スクールカウンセラーを中心に、生徒が相談しやすい教育相談体制の更なる充実を図り、定期的なスクリーニング会議を通して情報共有を図る。今年度同様、各学年において主任との連携を充実させ、生徒をよく観察し、適切な声掛けを行うとともに、不登校傾向にある生徒や保健室への来室頻度が高い生徒に対してアンテナを高くし、生徒に寄り添ったきめ細かい指導を継続していく。	
				生 18	学校は、いじめ防止に向けて取り組んでいる。	83.3	16.4			
				保 18	学校は、いじめ防止に向けて取り組んでいる。	92.5	6.9			
				職 17	教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員と相談できる。	98.3	1.7			
		②挨拶、通学マナー、貴重品の管理、SNSの適切な利用等、社会生活に不可欠な資質の自己形成と規範意識の高揚を促す。	②指導の実施回数・実施状況、生徒・保護者・地域による評価アンケートの結果及び地域の意見	生 22	私は、日常生活で学校の規則を守り、挨拶もできている。	94.7	5.3	登下校指導週間を年間3回設け、挨拶指導や登下校の安全指導に当たった。また、長期休業前のホームルームを利用し、生徒指導主事による訓話を行うほか、近隣の住民の方からいただいた苦情や意見を速やかに各担任を通じて生徒に伝え、改善を図った。アンケート結果では、生徒と保護者の評価が高かった。一部の生徒のマナー違反が学校全体の低評価につながるため、きめ細かい指導を粘り強く継続していく必要がある。	登下校指導を今年度と同様に年間行事位置づけ、指導を継続していく。また、PTAとの連携を密にし、校外指導等を継続し、生徒の安全を確保し、マナーのより一層の向上を図る。生徒の登校マナーに関して、毎年、地域住民からの苦情があるため、生徒への呼びかけだけでなく、苦情を受けている旨を保護者に周知し、学校と家庭が連携して、改善に繋げる。	
				生 23	私は、交通ルール・乗車マナーをわかまえ、実践している。	97.9	1.8			
				保 15	基本的な生活習慣が身につくような指導が行われている。	90.8	8.4			
				地 7	佐倉高校の生徒は、交通安全に心がけて通学している。	100.0	0.0			
		③特別活動やグループ学習、部活動等、多様な体験活動を通して集団の中の一員としての自覚を持たせ、協働性を養う。	③生徒・保護者・職員による評価アンケートの結果	生 14	部活動や学校行事等は充実していて学校生活は楽しい。	85.9	14.1	新型コロナウイルスが5類に変更され、必要な感染症対策を講じて、体育祭・球技大会・文化祭を無事に実施することができた。また、修学旅行についても昨年と同様に、適切な感染対策を行った上で実施することができた。部活動においても、県外合宿や対外試合が可能になり、生徒・保護者の満足度が回復してきている。	協働性・社会性を養うために、多様な体験活動を実施していく。生徒会行事や部活動については、生徒の自立を促すためにも、自主的な活動となるように指導していく。	
				生 15	ホームルーム活動は活発で、クラス全体で関わっている。	87.8	12.2			
				保 13	部活動や学校行事等は活発である。	94.1	5.6			
キャリア教育	将来の目標を明確にすることができるよう、ガイダンス機能や講演会・相談活動等を充実させるとともに、進学指導重点校として第一志望合格を保証する現役主義の進路指導を充実させる。	①進路指導に関する最新の情報を生徒及び保護者に的確に発信し、家庭との連携を図る。	①生徒・保護者による評価アンケートの結果及び情報提供の内容及実施回数	生 12	学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる。	89.2	10.8	生徒対象の進路説明会を1年生1回、2年生2回、3年生2回実施するとともに、学年集会やホームルームにおいて進路情報の提供を行った。また、保護者対象の進路説明会を各学年2回ずつ実施し、保護者面談等においても情報提供を行った。また、授業外の講習(前期:12講座、後期:14講座、夏季休業中は28講座)を積極的に開講したため、多くの生徒の受験指導を支援することができた。生徒・保護者とも進路指導に対する満足度は高い値を示しており、進路指導部を中心とした適切な指導が高評価へとつながった。	大学入学共通テストでは、過去の入試結果からより細かい分析と傾向を伝授する必要がある。引き続き進路指導部を中心に生徒・保護者に的確な情報提供をしていく。また、新学習指導要領の導入に伴い、令和4年度入学生においては大学入試について不安が大きい。ため、平素の授業の大切さを説くとともに、最新の入試情報を生徒・保護者に提供していく。	
				生 13	生徒の希望と適性を生かした適切な進路指導が行われている。	89.6	10.4			
				保 11	学校は、進路についての情報をよく保護者に提供している。	88.5	11.1			
				保 12	生徒の希望と適性を生かした適切な進路指導が行われている。	89.3	10.3			
		②職員研修を充実させるとともに、教科・学年・分掌が連携し個に応じた指導を充実させる。	②職員研修の実施状況及び進学講習の実施状況	職 15	生徒の希望と適性を生かす進路指導ができている。	95.0	5.0	進路に係る職員研修を年間計画に位置付け、1・2年担当職員に対して4回、3学年担当職員に対して5回実施し、確認演習等の分析、保護者面談や出願に係る研修を行った。ほとんどの職員が充実した進路指導ができていると捉えており、組織的に進路指導に取り組むことができた。	引き続き、職員研修を充実させ、生徒の大学選び、進路選択に的確な助言が与えられるようにする。進学指導重点校において初めて3年の担任をする教員も少なくない。ベテランの豊富な経験と知識を若手に伝授し、組織を揚げた進学指導の充実を図る。	
特色ある活動	SSH事業による理数教育の充実と探究学習の充実を図る。	①探究学習を通して、論理的思考力と発信力を一層高める。	①②③年度末の探究学習の発表の状況 学科や教科を超えた横断的取組の状況					大学や民間企業と連携したSSH講座やサイエンスダイアログ等が昨年度よりも充実し、サイエンス分野での探究学習を先進的に進めることができた。また、校外での異文化体験や調査活動を行うことができ、生徒が主体的に動き、協働的に探究を進めることができた。また、年度末の課題研究発表会に向け、外部講師等による課題研究についての指導・助言を踏まえ、生徒らが改善を加え、協働性の涵養と問題解決能力の育成に繋げることができた。	生徒の主体性を重んじ、的確な助言を与えながら、幅広い活動を推進していく。また、その成果を発信できる場を模索し、生徒の探究心をより一層の喚起につなげる。	
		②協働性の涵養と問題解決能力の育成を図る。								
		③英語による発信力の強化に取り組む、語学力を強化するとともにグローバルな社会問題についての関心を高める。								
				国立教育政策研究所が推進する教育課程実践検証協力校事業(物理)の指定校として、また、英語教育拠点校として、グローバルな社会問題を意識しつつ、発信力の強化に努めることができた。特に海外研修の代替として始まったブリティッシュヒルズ研修や、国内大学留学生を招いてのグローバルスタディーズプログラムにおいては、生徒の積極的な取組が見られ、成果を上げた。				引き続き、英語科を中心に創意工夫のもと、授業内におけるパフォーマンステストの充実や探究学習を通して発信力の強化を図る。		

アンケートの回答率は、無回答や四捨五入しているため、合計が100％にならない場合がある。